女子美術大学大学院 博士前期課程

平成30年度 (2018)

インタラクティブ空間演習

初回オリエンテーション

school

語源

skhole [ギリシャ] = 「意義ある余暇」

- " school " (学校) の語源
 - ギリシャ語 スコレー (skhole) 閑暇 かんか
 - 閑暇(スコレー skhole) ←→ 仕事(アスコリア askholia/ 閑暇の不在)

「閑暇とはたんに暇な時間ではない、また、仕事の疲れを癒す休息でもない。閑暇は、人間が学問や芸術に専念し、幸福を 実現するための、自由で満ち足りた時間である」

加藤守通「第2講 哲学と教育」、『教育思想史』 今井康雄(編)東京:有斐閣アルマ、2009年、46頁。

自己紹介

- 石井 拓洋(いしい たくよう) Ph.D. takuyo.ishii@gmail.com
- 研究領域
 - 音楽文化学研究(とくに20世紀アメリカの音楽と文化)
 - 作曲家アーロン・コープランド研究

- 学部 = 作曲
- ・ 修士 = 映画音楽研究 (古典的ハリウッド映画、エイゼンシュタイン など)
- ・ 博士 = アーロン・コープランドの映画音楽 と 20世紀アメリカ文化の考察

メニュー

オリエンテーション orientation (方向づけ)

本日の話

- 〈研究的視点〉を学ぶ重要性
- ・ 授業の具体的説明
- ・ 来週の連絡

藝術文化研究のための「視点」の設定の重要性

● 藝術文化研究の過程

- 1. 研究上の〈問い〉の明確化
- 2. 〈問い〉にもとづく調査によるデータ収集
- 3. 〈研究的視点〉によってデータを分析する。まとめる。
- 4. 研究上の〈問い〉の再考 (1へもどる)

藝術文化研究のための「視点」の設定の重要性

●人文社会科学研究の主要な論点を知る

- → 西欧近代主義を相対視する視点 (西洋中心、主体性、還元、進歩)
- → 知の権力性に批判的な視点 (「国家のイデオロギー装置」アルチュセール)
- → 正史 (canon)を疑う視点 (歴史叙述と 権力)
- → 周縁への視点 (中心と周縁)

啓蒙思想の特徴:西欧「近代主義」の特徴

- 西欧中心主義 eurocentrism

西洋こそが世界で最も進んだ文明であるという考え

• 要素還元主義 reductionism

物事の本質をさぐるには、本質以外の余計な要素を極力排除すべしとする考え

• 進歩主義 progressivism

新しいことは常に良いとする考え

- 人間中心主義 anthropocentrism

人間を 自然環境・生物 など 万物の中心とする考え

• 機械論 mechanism

人間は科学によって自然を制御することができるとする

藝術文化研究のための「視点」の設定

・ 藝術文化研究での 基本的視座

「20世紀の知の最大の変革は、 物事を『実体』ではなく、『関係』として認識しようとすることです」

(小林康夫、船曳建夫編『知の技法』1994年、102頁。)

実体論 から 関係論 へ

藝術文化研究のための「視点」の設定

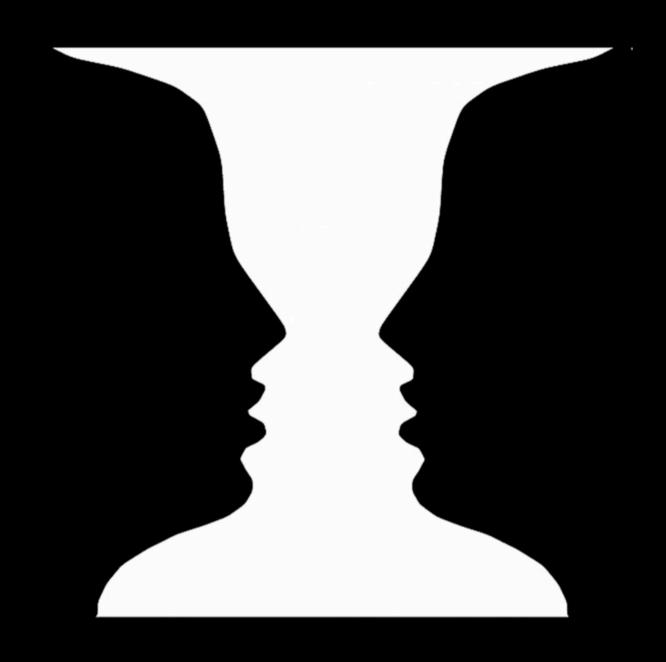
・ 藝術文化研究での 基本的視座

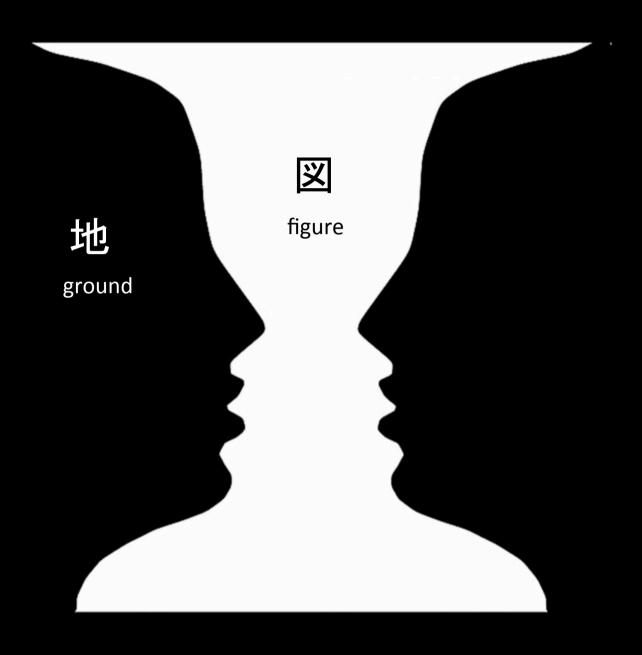
「20世紀の知の最大の変革は、 物事を『実体』ではなく、『関係』として認識しようとすることです」

(小林康夫、船曳建夫編 『知の技法』1994年、102頁。)

「美 とは何か ?」、「美 の本質とは何か?」 というよりも (実体論,本質主義、など) ↓ (今日的な視点でいえば)

「日本では、なぜ"侘・寂"が、美と認識されるのか?」(関係論、構築主義、など)





「すべての見えるものは、、、

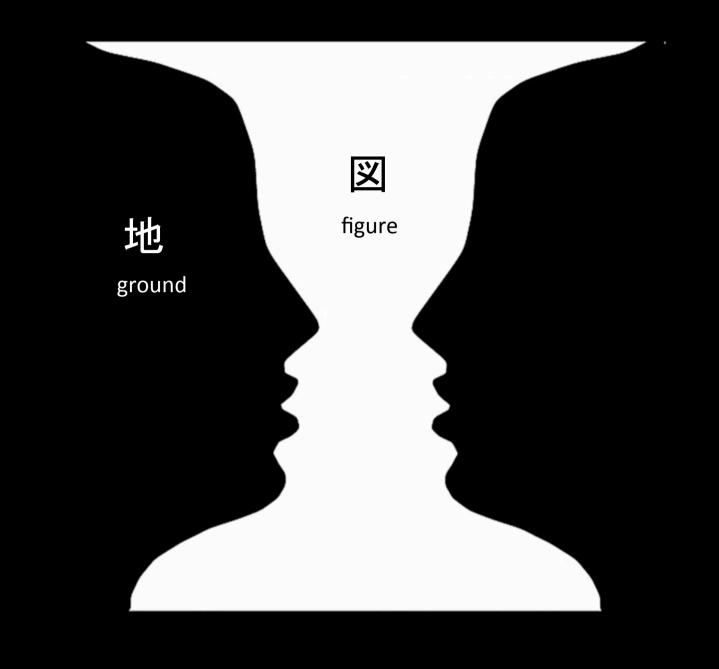
図と同じような意味では見えることのない地を含んでおり、」

[メルロ・ポンティ 360頁]



- ものごとは、一方に「図」があれば、かならずもう一方に「地」がある。
- 「図」と「地」が共存することによって、はじめて全体が成立する。相互依存的である。
- 「図」または「地」のうち、一旦いづれかに着目すると、もう一方が見え難くなりがちだ。
- 「図」と「地」には優劣はない。存在としての水準は同程度である。

Ex.) 強者と弱者、中心と周縁、 役にたつものと役にたたないもの、新しいものと古いもの、 順境と逆境、 男と女、陽と陰、、、





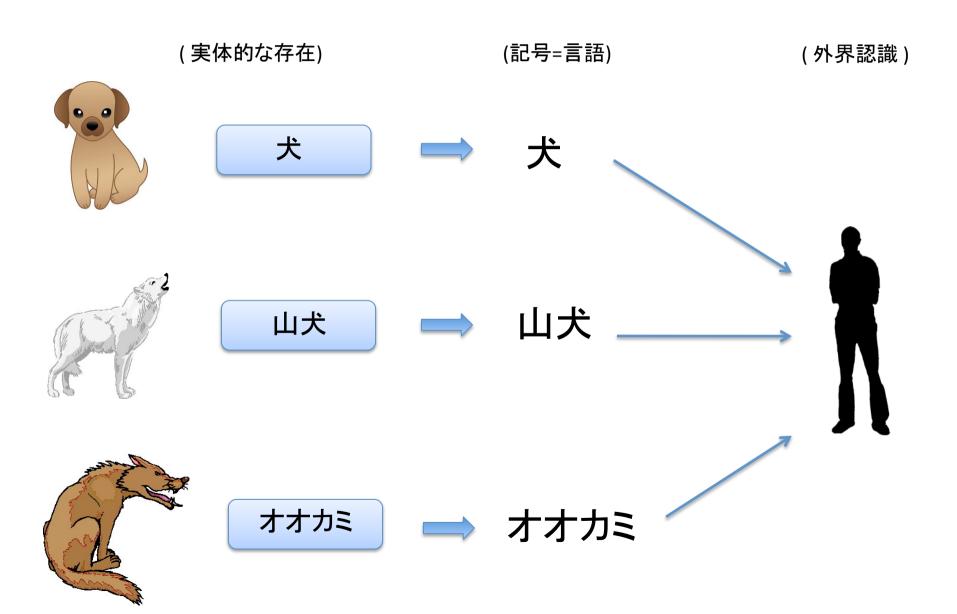
figure

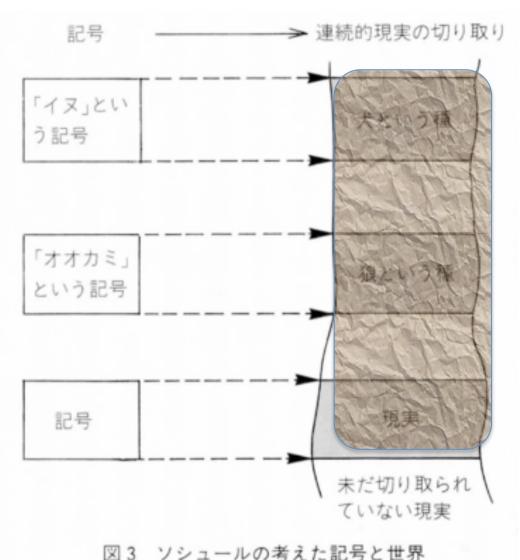
実体論から関係論への変遷をみちびいた 20世紀の言語観

「言語名称目録観」

ソシュール以前の外界認識モデル

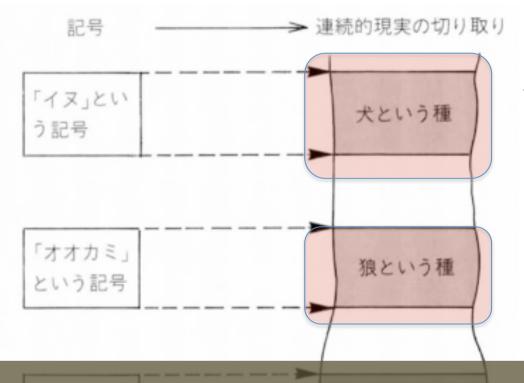
最初に物などが存在する。 人は物にラベルをつける。 それによって外界を認識する





〈イヌ〉 的な生物種の連続したつながり

本来、人間の知覚をはなれた 自然には、イヌ的なものは、 このような連続した 種のつながり でしかない。



連続した連なりの一部を

「犬」などの 記号を用いて区分することで、

人間に 「犬」の認識がうまれる。

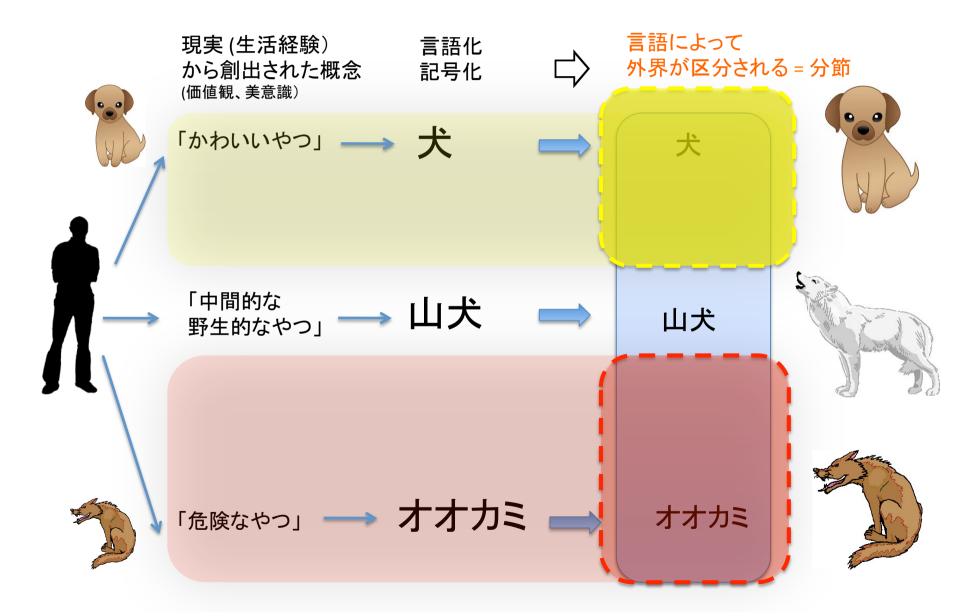
言語によって外界は区分される

図3 ソシュールの考えた記号と世界

「言語論的転回」

ソシュール以後の外界認識モデル. 記号論の視点

人の価値観に基づいて 本来は〈区分のない〉外界を 記号を用いて〈区分する〉。 そして外界を認識する。



音の差異

概念の差異

「いす」×

「いと」×

「きぬ」×

「シニフィアン」 記号表現

「いぬ」

「いに」×

「しぬ」×



これではなく

 \downarrow



これ

「シニフィエ」 記号内容



个 これでもなく

言葉においては

「音」も「概念」も 他との関係による「差異」 によってしか示すことができない

「言語とは差異の体系である」

具体的な授業説明、ほか

- シラバス参照
- 講義資料webページ
- ・来週の連絡、連絡先確認など